



有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I
Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakieigo.com/> e-mail: info@chigasakieigo.com

はじめに

福岡の大地震の直後に福岡中央校の創立7周年記念講演会が行われました。福岡は4月20日にも大きな余震に見舞われましたが、福岡中央校は無事だったとのこと。また茅ヶ崎方式で学び見事に羽ばたいて行った浜松校の会員さんからのうれしいお知らせもお寄せいただきました。



創立7周年記念講演会、無事終了！！

福岡中央校代表 蓮尾 恵子

桜がようやくほころび始めた、4月2日(土)、九州大学医学部百年講堂において、茅ヶ崎方式英語会より和田哲郎先生、また、地元福岡在住でアメリカNY州出身の、Lawrence Lee Robinson氏をお招きして講演会を開催いたしました。講師・現会員・旧会員が30名、一般24名のお客様をお迎えすることができました。

和田先生のお話は、先生の知性と読書量に裏打ちされた、多岐にわたる内容でした。その中から、来場者の多くの方の心に残ったと思われる言葉を一つ。フランスのルイ・アラゴンというレジスタンスの詩人の『ストラスブールの学生のうた』から「教えるとは希望を人に伝えること、学ぶとは誠を胸に刻むこと」を取り上げられました。茅ヶ崎方式で「学習会」という言葉を用いるのは、講師と生徒が共に学ぶという意味があるからだ、とおっしゃいました。また、教材作成にあたっては、日本語と英語の文化的背景から来る差異から、日本語訳にご苦労なさっておられること、第5パラグラフに作成者としての思いを込めようとしておられることなどを話されました。皆さん、これからは第5パラグラフに注目しましょう！

福岡中央校の毎週の宿題ニュースでお馴染みの、Lawrence Lee氏は、ジャケットやシャツをブルー系でまとめて、颯爽と登場されました。お話は、the international lingua francaとしての英語の重要性について、世界の郵便物の70%、科学系論文の3分の2が英語で書かれている、などの具体的なデータを例示されました。また、現代社会にITが欠かせない以上、英語は必須であること、そしてその英語力を伸ばすには、schoolも大切だが、教室の外でどれだけたくさん英語を読み、聴き、話すかによること、それもtextbookではなく生の英語、新聞・雑誌などを。ITを使えば、居乍らにして外国の人々の考えを直接知ることができる、とその活用を勧められました。そして、最後にnative speakerでなくてもいい、日本人同士でいいから英語を話す機会を作って、練習しましょうと言われました。

皆さまのご協力により、いい会ができました。ありがとうございました。

母が茅ヶ崎方式浜松校を主宰して4年が経ちました。この4年間、私は母の元で茅ヶ崎方式の教材を用いて学習会に参加してきました。4年前私は中学3年生でした。茅ヶ崎方式は時事英語を扱った学習会なので当時中学生だった私は少し背伸びして同じグループのお姉さん達に頑張っついていきました。

そして今年の春私は第一志望の東京外国語大学欧米第二課程フランス語専攻に無事合格する事ができました。受験勉強を通して痛感した事は茅ヶ崎方式基本4000語の単語は英語の長文解釈にジャンルを問わず頻出するという事です。また今年の東京外大の前期試験はリスニング問題が300点中の60点を占めていました。ひとつめがアメリカ経済を扱ったもので英問英答する形式でした。もうひとつは伝書鳩の生態について内容を200字以内の日本語でまとめるものでした。二つとも長い英文を聴きながら効率よくメモ取りをする技術が要求されるものでした。そして私は普段茅ヶ崎のLCTで鍛えた成果をこのとき大いに発揮する事ができました。リスニング能力は一朝一夕で身につくものではありません。従って入試などのテストにおいてもっとも顕著に差がつく分野だと思えます。私は自分のリスニング力は茅ヶ崎方式で向上させる事ができたと胸を張って言えます。

また茅ヶ崎方式は私が政治経済などの社会事情に興味を抱くようになったきっかけでもあります。大学では副専攻の英語と共に国際関係の授業を積極的に履修したいと思います。若い世代を中心に低投票率を始めとする政治的無関心が深刻な問題となりつつある昨今、一人でも多くの同世代の人がこの魅力ある教材に出会う事を願っています。

お知らせ

当会創始者松山薫氏より、昨年秋に英語学習法に関するアンケートを協力校主宰者の方々にお願ひし、ご協力をいただきました。これに関する、本年4月1日付松山薫氏からの回答に続き、更に、以下のメッセージが同氏より寄せられましたので主宰者の皆様にお伝えいたします。

「日本の英語教育」 山田雄一郎著 (岩波新書 740円+tax)

先にお配りした「私の見解に対するご意見、ご質問に答えて」の中で、同じ著者による「英語教育はなぜ間違っているのか」を紹介し、内容を一部引用させてもらいましたが、この本が、中・高校生を含む英語学習者を対象にしているのに対して、表記の新著は、英語教育に携わる人達へのメッセージであると思えます。著者の所説は、茅ヶ崎方式英語学習法の理念を学問的に裏付けるものであり、特に「第3章 英語と義務教育」のp.116~p.130は、きわめて具体的な提言なので、茅ヶ崎方式への理解を一層深めるために、是非ご一読願いたいと思います。 松山 薫

英語学習法に関するアンケートに関しては、昨年10月以降の新規開設校へはお送りしておりませんので、該当校へは追ってお送り致します。

高崎市郊外にある当教室は、この四月で3年目を迎えました。現在は、C1からC3までを開講しています。C3は会員の方々からのご要望で、この四月からスタート。このクラスは完全な勉強会形式をとり、参加者で順番を決め、レッスン準備、進行を担当して頂いています。それでも退会される方もなく続けていらっしゃる皆さんの熱意に感心させられると同時に、茅ヶ崎方式の魅力を改めて痛感しています。

会員の方々の目標は、趣味、留学、仕事上必要、或いは将来のため等々さまざまですが、「英語力を高めたい！」という気持ちは皆さん同じ。学習方法の情報交換をしたり、教えあったりと和気あいあいとした中にも、刺激し合い、モチベーションを高め合える場になっているようです。これこそが、学習会の意義だと感じています。

コミュニケーションは、相手の話をよく聴き、自分の気持ち、考えを伝えること。その手段としての英語を学ぶ方法はさまざま。茅ヶ崎方式は、まさにこの「よく聴く」をシステマティックに身に付けることが出来る。会員さんから、「ここまでよく聴いて、意味をしっかりと確認することは少なかった。」という声をよく耳にします。「よく聴く」に重点を置きながら、伝えることへのステップになるようにと、リピートやシャドウイング等もレッスンの中に取り入れています。

茅ヶ崎方式の素晴らしさを出来る限り多くの人々に伝え、英語を通して世界を広げて頂きたい！夢に近づくよう目標を達成して頂きたい！そんな思いでこれからも皆さんと一緒に英語を楽しみたいと思っています。

《神戸中央校 (TransCultureNetwork) 》

神戸市中央区 代表 長嶺 圭子

神戸・元町にスクールを開校して早2年、5月には3年目に突入する。現在に至るまで、とにかく猪突猛進、がむしゃらに突っ走っている。大学での教鞭、研究と、スクールの運営の全てを両立させるのは決して容易ではないが、全てが深いところで相互に関連し影響している中、補完的に存立している状況である。換言すれば、全てがそれぞれを高める為の礎であり、どれひとつ欠けても成長しない。「学者馬鹿」であっては、「運営」は出来ないし、「経営」のみを追いかけすぎると「アカデミズム」からかけ離れていく。人生、何事もバランスである。そして、適度なバランス感覚を持ち続けることは、思いのほか、難しい。

バランスと言えば、英語ニュースを扱うことにおいても同じである。「英語教育」である以上、語彙、文法など、教材を「語学」として扱うことは中心課題である。しかし、ニュースを教材として取り扱う以上、社会に起きている様々な事象に着眼しない訳にはいかない。「英語」だけを追いかけると、「ニュース」を扱う妙味がなくなってしまうのである。当校では、「英語を通して、社会を読む」ことを目指し、様々な取り組みを実践している。ひとつは、「世界を読み解くセミナー」と銘打つての定期的なセミナーの実施である。日本人の演者もいれば、外国人の演者もいる。ビジネス、ジャーナリズム、アカデミズムなど幅広い分野の方々にお越し頂き、タイムリーなトピック、受講者の関心事に応じたトピックについて講演して頂く。勿論、英語で行うことは頻繁にある。また、今年取り組んだこととして、全10回のメディアディスカッションセッションを実施し、現役のアメリカ人ジャーナリストにコンダクトをお願いしてきたが、いづれも盛況のうちに終了した。机の上で学んだことを自分の中で消化し、自分の考えとして発話していくことが、本当の、そして、成熟した成人のコミュニケーションであると考えている。

自身のアメリカ生活を振り返っても、パーティに出席したところで、「天候」や「趣味」など差し障りのないトピックでお茶を濁すことは、ものの5分もあれば十分事足りた。むしろ大切なのは、それから、「それであなたは自身はどういう人物なのか」という事。ひとつのissueに対し自分自身はどう考え、意見を持つのかということを確認に意思伝達できて、初めて、「大人」とみなされる。そろそろ、そうしたことに「お客さん」であることを辞める日本人でありたい、と自身にも受講者にも思う昨今である。

茅ヶ崎方式の教室に通ってから2年が過ぎようとしています。冬は群馬のカラッ風で風邪をひき、時折「英語聞きたくない病(?)」にかかる私が、何とか学び続けていられるのは、いつも笑顔でやさしく励ましてくださる飯干先生のおかげです。

3年前、結婚退職を機に英語を勉強しようと思いましたが一人では難しく、身につかないうちに1年が過ぎてしまいました。そんな時、地域情報誌で茅ヶ崎方式の教室を知り無料体験を受けてみました。世界や社会の動きも学べるので「これはいい!」と感じ、通い始めました。政治・外交など新しく生き生きとした教材なので、日ごろからニュースをチェックすることが楽しくなり、時間があればCNNや洋画などを見るようになりました。

教室では、尊敬したくなるほど英語をよく聞き取る仲間を見ては、驚きと共に自己嫌悪に陥ったりしつつ「継続は力なり」を信じて勉強を進めています。私のクラスは7名で、他の英語学校に行っているけれど「やはり茅ヶ崎は違う」と、レベルアップを求めて通われている方が多くいます。ポキャブラリーが豊富なFさんはいつも英文で記事を読み、惜しげもなく吸収した知識を教えてくださいます。Yさんは、趣味で英語を学ばれているというには実力もあり温和で暖かい人柄で、主婦としてもあこがれる存在です。英語を勉強する私を見て主人は「どうしてやる気になるの?偉いね。」と言います。一緒に学ぶ仲間と、先生に励ましてもらった分、勉強にも前向きになり、以前より英語が好きになったからでしょうか? (^-^)

5月に友人の招待でスリランカ大使館主催のコンサートに行く予定ですが、久しぶりに会う友人との会話(英語)が少しでもスムーズにいくといいなと思います。趣味が「書道」「茶道」という私は「いつか日本文化を海外の方に紹介できるように」との夢と希望をもってこれからも取り組んでいきたいと思っています。

神戸中央校 C2会員 新宮 裕美子

茅ヶ崎方式で英語を学んで早2年、もがき苦しみながらも、実りも多い2年間でした。

予習・復習に明け暮れる毎日、濃い授業内容に耳や脳が麻痺状態に陥ることしばしば、TOEICの結果には一喜一憂(圧倒的に憂の方が多)。書き並べると一見、過酷な日々ようですが、やってみると実は結構面白い。今まで茅ヶ崎をやめたいと思ったことはありません。これも長嶺先生の情熱あるご指導があつてこそと感謝いたします。

確かにここの授業はきつい。"明るく楽しい"巷の英会話学校とは異なり、中途半端なやる気ではすぐに取り残されます。だからこそ、本気で英語を学びたい人にとってはこんなにも理想的で恵まれた教室はないと思います。長嶺先生は、鞭を打つ如く時には厳しく、時にはさらに厳しく常に新しい負荷を容赦なく与え続けて下さいます。私達生徒は悲鳴をあげつつも、その痛みは密かに喜びでもあるのです。

先生の並外れるパワーに引き寄せられるかのように、ここに集う生徒の皆さんもまたエネルギッシュな方ばかりです。英語力は勿論のこと、驚くのはモチベーションの高さです。皆、いい年をした大人ですが、真摯に英語を習得しようする姿は感動的です。学習意欲や暗記力に年齢は関係ない!とつくづく実感します。いつも互いに刺激し合い競い合う、まさに同志達です。恐らくこの茅ヶ崎方式神戸中央校は、神戸で最高レベルの語学学校ではないでしょうか!(ちょっと誉めすぎ?)

このゴールなき茅ヶ崎方式英語マラソン。絶対に途中でリタイヤしたくはありません。息絶え絶えに苦しみつつも、そんな自分を横目で笑い楽しみながら、これからもこのマラソンをずっと走り続けていきます。

あとがき:各地の協力校で会員さんが前向きにがんばっていらっしゃる様子はとても励みになります。

皆様からのお便りをお待ちしております。